

場面緘黙 (園でしゃべらない)

入園後2～3か月たっても園でしゃべらない時は家族に伝え、家庭での発話の状況を確認する。

場面緘黙の症状

- ・園で全くしゃべらない、または、ほとんどしゃべらない。
- ・幼児期の子どもの0.4～0.7%程度に発症。
- ・生まれつき気持ちを表現するのが苦手な子（抑制的気質）に多く発症。
- ・不安や緊張がとても強くて話せない。
- ・症状の程度は、人や場や状況によって異なる。

望ましい対応

- ① 不安を減らし、リラックスできる環境をつくる。
- ② 初めは、話すことを強制せず、身振りやしぐさなどで気持ちが伝えられるようにする。
- ③ スモールステップでできることを褒めて、自信を育てる。
- ④ 活動や行事は、保護者・子ども本人と事前に打ち合わせし準備をする。
- ⑤ どうしたいかを子どもに尋ね（いくつかの選択肢を示し）、子どものペースで活動に参加できるようにする。
- ⑥ 現状に甘んじることなく、忍耐強く小さな成果を大切にする。
- ⑦ 言葉を用いない遊び、シャボン玉・笛・風船などの口を使う遊びや、音を鳴らすなどの騒がしい遊びがよい。
- ⑧ 保育者が手紙で子どもとやり取りする。
- ⑨ 家で話している様子を、ビデオでクラスの子どもに見せることを、子どもと家族に提案する。

避けたい対応

- ① 話せないことを責める。
- ② 話すことを強制する。
- ③ サポートせずに放っておく。

相談の場：通級指導教室（ことばの教室）、小児科・児童精神科